

自彊前進

NO. 45 令和6年2月22日(木)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

題字 西村直子

いじめ撲滅に向けて～当校の実態～

111, 404件——何の数字が分かりますか？

令和4年度に、全国の中学校で認知されたいじめの件数です。

内容別に見ると、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、60%以上を占めます。「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、けられたりする」が15%程度、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」が10%程度と続きます。全国に中学校が1万校ほどあることを考えると、その10倍以上の件数のいじめが発生しているので、いじめはどの学校でも起こりうると思えるべきです。

「生徒等に対して、当該生徒等が在籍する学校に在籍している等当該生徒等と一定の人的関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいう。」

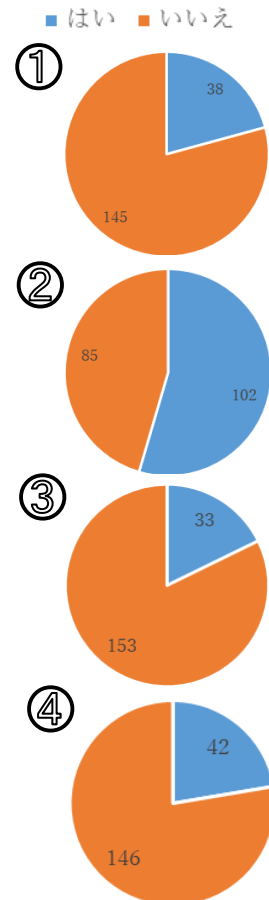
これは、いじめの定義です。受けた側の人嫌な気持ちになったり、痛みを感じたりすることを「いじめ」と呼びます。それを行った人が「いじめ」と考えていなくても「いじめ」になるのです。先日「心の健康チェックアンケート」で、全校生徒を対象に以下の質問をしました。

- ① あなたは、今までクラスメートが、自分に気付かれないように、自分の悪口を言っていると感じたことはありますか？
- ② あなたのクラスにおいて、特定の仲間に対して、その人がいないところで悪口を言う生徒はいますか？
- ③ あなたの学級において、クラスメートからの悪口やからかい、暴力等で悩んでいる、又は悩んでいると思われる仲間はいますか？
- ④ あなたのクラスにおいて、グループライン等のSNS上で、クラスメート（自分を含む）を誹謗中傷している人がいることを見聞きしたり、実際にその内容（画面）等を見たりしたことはありますか？

右のグラフは全校の結果になります。どのように感じられるでしょうか？この結果を見る限り、当校においてもいじめは決して他人ごとではないことが分かります。

昨日、1, 2年生の各学級において、自学級の結果を見ながら、学級活動を行いました。自学級の結果や傾向を見ながら、様々な意見が出され、次のことを確認いたしました。

- いじめはどこでも起こりうるものである（附属中も例外ではない）。
- いじめは気付かない所で行われている可能性がある。
→見ようとしなければ見えない。
- そこにいる人すべてが当事者であるという意識が大切だ。
→「何もしていない」は加害生徒のサポートにつながる。
- SNS上での誹謗中傷もいじめになる。



いじめかいじめじゃないかの判断よりも、相手がその行為をされたら嫌だ、と感じるかもしれないと思えるかどうか大切です。そもそも、「自分がされて嫌なことは絶対人に対してしない」——この当たり前の感覚を常に意識することです。これこそ、附属中学校が大切にしている「相手意識」ではないでしょうか。